

# 曇雨天に対する農作物の技術対策について

平成 27 年 7 月 7 日

農 業 技 術 課  
総合農業技術センター技術普及部  
果樹試験場技術普及部  
畜産試験場技術普及部

6月下旬以降、雨と曇天が続いており、特に7月上旬は日照も極端に少なくなっています。今後、数日間も曇雨天となる予想ですので、以下を参考に農作物の管理を徹底してください。

## 1 週間予報 (7月7日5時 甲府地方気象台発表)

7月7日11時 山梨県の週間天気予報

日付	8水	9木	10金	11土	12日	13月	14火
山梨県 府県天気予報へ	曇	曇一時雨	曇一時雨	曇時々晴	曇時々晴	曇時々晴	曇時々晴
降水確率(%)	30/10/30/30	50	50	30	30	20	30
信頼度	/	/	C	C	C	B	B
甲府	最高(°C)	28 (24~30)	31 (27~34)	31 (27~34)	30 (26~33)	30 (26~34)	31 (27~35)
	最低(°C)	21	21 (20~23)	22 (20~23)	22 (20~23)	22 (20~23)	22 (20~23)
平年値	降水量の合計		最高最低気温				
甲府	平年並 14 - 33mm		最低気温 21.5 °C		最高気温 30.1 °C		

## 2 技術対策

### [果 樹]

モモは中間産地で早生白鳳の収穫が始まり、ブドウは早場産地でデラウエア、巨峰系で着色始め期となっている。

モモの着色不良、過熟果や果実腐敗の発生及びブドウの病害虫の発生、果粒の裂果などが懸念されるため、次の管理を徹底する。

### < 共 通 >

- (1) 冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を設置するとともに、ほ場内への浸水を防ぐため、排水溝を点検、補修、整備する。
- (2) 傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。

### < モ モ >

- (1) 除袋は、通常より2~3日早めに行う。
- (2) 枝吊りや支柱の立て直しを行い、樹冠内部や樹冠下に十分日光が当たるようにする。

- (3) 着色期の品種では、徒長枝の剪除や 20 cm 程度残した摘心、葉摘みを行う。樹冠下の明るさの目安は木漏れ日が約 20% 透過する程度が良い。
- (4) 反射マルチは早めに敷き、反射率の高いものを使用する。  
ただし、梅雨明け後は強日射による日焼け果防止のため、反射マルチの調節を行う。
- (5) 着色不良であっても、熟期がきている果実は、熟度優先（硬度 2 kg を下回らない）で収穫する。また、前予冷施設や保冷などを活用し、熟度の進行を抑える。
- (6) 果実腐敗病の発生に注意し、防除間隔が長い場合や、発生が見られる場合は、直ちに防除する（使用基準を遵守する）。なお、ほ場を巡回し、落果した果実や発病果は土中に埋めるか園外に持ち出す。

### <スモモ>

- (1) 支柱の立て直し、徒長枝の剪除、摘心などの管理により、樹冠内部に十分日光が当たるようにする。特に、結実不良の園では、新梢が過繁茂になりやすいので、管理を徹底する。

### <ブドウ>

- (1) 棚面の明るさ確保のため、新梢の誘引の見直しを行う。
- (2) 棚面が暗い場合は、副梢を 2～3 枚残して摘心したり、旺盛な新梢の摘心や空枝の剪除を行う。  
ただし、着色始めの園での極端な新梢の剪除は、逆に着色不良を招きやすいので、着色が全体に回った段階で実施する。
- (3) 大房傾向の園では、着色遅延の恐れがあるため、着色や房形の悪い房を中心に摘房の見直しや房の調整を行う。
- (4) 大雨により裂果が心配されるので、ほ場内の滞水を防ぐため、排水路を設けるとともに、ほ場を巡回し裂果した果粒は摘粒する。
- (5) ベト病対策として、薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず、降雨前や晴れ間を見計らって散布する。（カサかけの園では棚上散布とする）。  
また、ベト病の発生が見られる場合は、発病部分を取り除くとともに薬剤散布を徹底する。
- (6) 降雨によりこの時期の防除間隔が空くと、梅雨明け後のスリップス類の発生が多くなることが予想されるため、防除暦に従いベト病防除と同時にスリップス防除を行う。

## [野 菜]

- (1) ほ場周辺の排水路を点検、補修、整備し、排水路からの逆流防止のため、ゴミ等を取り除く。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
- (2) 大雨により、ほ場が滞水した場合は、速やかに排水を行う。
- (3) ナス、トマト、キュウリでは、疫病、べと病、うどんこ病などの発生が多くなるので、病株、病葉、病果の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。
- (4) 夏秋ナスは、本格的な収穫期をむかえるため、葉面散布、追肥等適正な肥培管理に努め、草勢の維持を図る。

## [花 き]

- (1) 露地切り花類は、集中豪雨や長雨等によって浸水や冠水のおそれがあるため、ほ場の周囲に排水溝を設ける。
- (2) 浸水、冠水した場合は、速やかに排水するとともに、施肥、薬剤散布等の管理を的確に行い、生育の回復に努める。
- (3) 施設切り花・鉢物は、ほ場周辺の排水路を点検し、排水路からの逆流を防ぐため、ゴミ等を取り除き、施設内への浸水、冠水防止に努める。
- (4) 灰色かび病の発生が多くなるため、こまめなハウス内換気に努め、適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。

## [水 稲]

- (1) 曇天が続くと、いもち病等の発生が懸念されるので、その発生動向に留意し、適切な防除に努める。

## [大 豆]

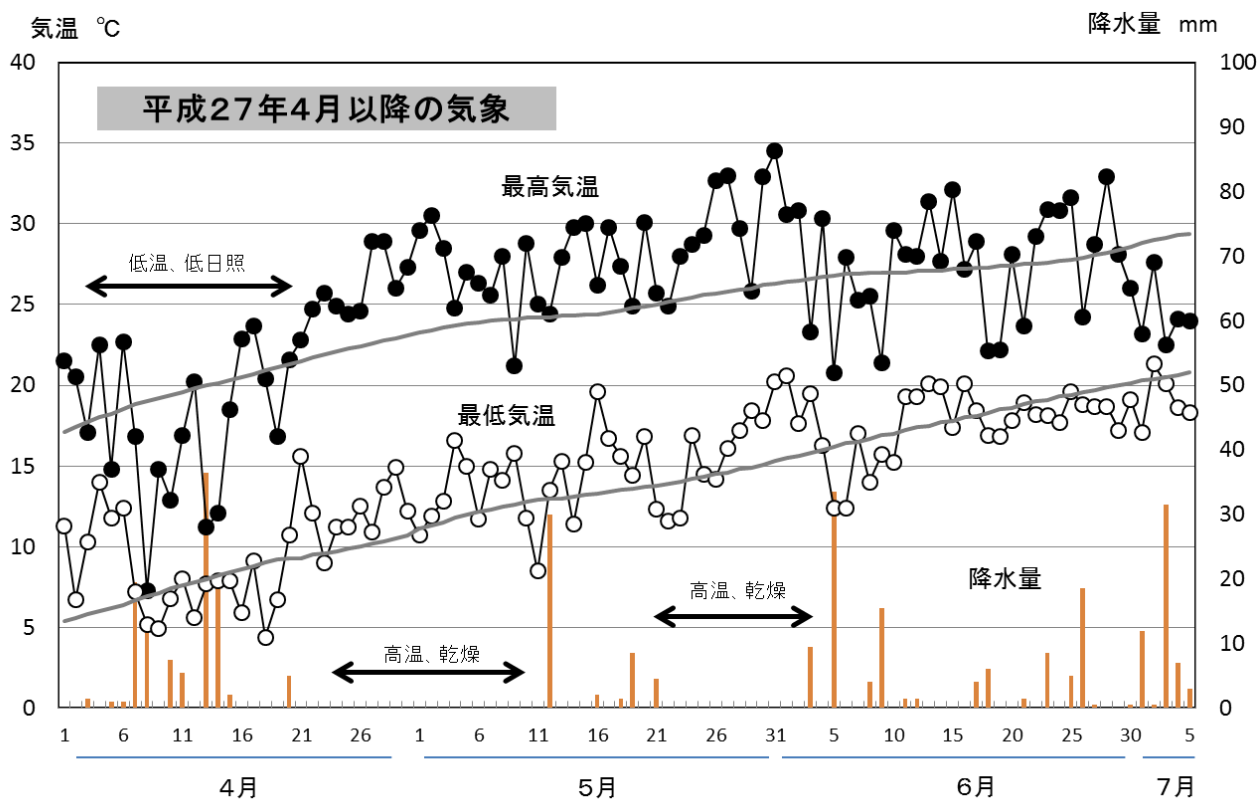
- (1) 降雨の影響により作業の遅れが見られるため、ほ場周囲に排水口や溝を設置し、湿害対策を徹底した上で、降雨の合間に播種作業を行う。
- (2) 滞水した場合、生育遅延や根腐れを防止するため、速やかに排水する。

## [畜 産]

- (1) 畜舎周囲の排水路の点検整備や排水の確保に努める。
- (2) 排水不良が懸念される飼料作物のほ場では、湿害対策のため排水の確保に努める。

### 3 参考資料

#### (1) 平成27年4月以降の気象



#### (2) 平成27年6月～7月の日照時間

(時間)

	平成27年	平年	平年比 (%)
6月中旬	36.6	50.8	72.0
6月下旬	62.3	36.9	168.8
7月上旬	(※) 3.4	47.2	-

(※) 7月1日～6日まで